

展示室 1 イギリスの人と自然



デイヴィッド・コックス  
《川辺の騎手と人物》

イギリスの画家たちは、人々の生活を取り囲む自然を様々な切り口で表してきました。イギリス風景画の巨匠、コンスタブルは愛着を込めて地元ののどかな風景を描き、ターナーは“崇高”という概念の下に自然と人間の関係を壮大な構図で描き出しています。ノーフォークのノリッジには、田舎の風景を求めて多くの画家が集い、ノリッジ派を形成しました。また、文学と相互に影響しあって生まれた風景画は幻想的な魅力を湛えています。

18～19世紀のイギリス画家が風景を描く動機は、現在の私たちの感覚とは異なっていますが、そのまなざしには共感できる場所も多くあるでしょう。人と自然の普遍的な関係を感じて、私たちの周囲の自然への思いを新たにしていただければと思います。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745-46 頃	油彩・キャンバス
トマス・ローランドソン	北ウェールズ、カマーゼンの風景、教会へ向かう人々	1790 年代初頭	水彩・紙
トマス・ローランドソン	ヘント付近、ローエン駅に着く馬車	1790 年代	水彩・紙
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジュリアス・シーザー・イベットソン	人物の描かれた農家風景		アクアチント・紙
ジュリアス・シーザー・イベットソン	旅するジブシーたち		アクアチント・紙
ジョン・コンスタブル	『イングランドの風景』より 「夏の朝」「水車小屋」	1830-2	メゾチント・紙/ポートフォリオ
サミュエル・ブラウト	『コテージと田園風景の習作』	1816	ソフトグランドエッチング・紙/ポートフォリオ
ジョン・ラスキン	オーヴェルニュの丘		鉛筆、ホホワイトボディカラー・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	牧草地から仰ぎ見る城（オークハンプトン）	1808	エッチング、アクアチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ノアの大洪水	1828	メゾチント・紙
ジョン・マーティン	フレッシュウォーター・ベイ	1815 頃	油彩・キャンバス
サミュエル・パーマー	ひばり	1850	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	早朝に働く農夫（山々に広がる朝）	1861 以前に着手	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	疲れ果てた農夫（牧夫またはタードウス・ブルクス）	1858	エッチング・紙
M.B. フォスター（画） ディエル兄弟（刻）	J. モンゴメリ『詩集』挿絵	1860	木口木版・紙
M.B. フォスター（画） ディエル兄弟（刻）	岩の多い海岸と荒海に浮かぶ船		木口木版・紙
M.B. フォスター（画） ディエル兄弟（刻）	頭文字を木に刻む羊飼いのいる風景		木口木版・紙
M.B. フォスター（画） ディエル兄弟（刻）	釣りをする子供のいる風景		木口木版・紙
M.B. フォスター（画） ディエル兄弟（刻）	『イギリス風景画集』	1863	木口木版・紙/本
ジョン・セル・コットマン	『リーベル・ストゥディオールム（研鑽の書）；スケッチと習作集』	1838	エッチング、ソフトグランドエッチング・紙/本
サミュエル・デイヴィッド・コルケット	ジブシーの野営	1822 頃	エッチング・紙
ジョゼフ・スタナード	トロウズにて、ノリッジ		エッチング・紙
ジェームズ・スターク	樹々とコテージ	1822 頃	エッチング・紙
ジョン・クローム	「ウッドライジングにて」「草ぶき納屋のある田舎道」「スカウトンにて」		エッチング・紙
ジョン・クローム	ヘレスドンの眺め	1807 頃	油彩・キャンバス
デイヴィッド・コックス	川辺の騎手と人物	1850	水彩、鉛筆、チョーク・紙
サー・フランシス・セイモア・ヘイドン	テスト川沿い	1859	エッチング、ドライポイント・紙
サー・フランシス・セイモア・ヘイドン	シア・ミル池 No.2	1860 以後	エッチング、ドライポイント・紙
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス

## 展示室2 冬の風景



彭城貞徳  
《雪景色》

日本人は古より自然を愛し、描いてきました。紀元前からの中国の伝統を継承し発展した山水画は、靈的な仙境である山岳や川の自然表現を主題とし、室町時代には、雪舟などによって水墨による表現が成立しました。

明治時代に入ると、気象学、地質学など科学的な視点から自然を眺める近代的な自然観が確立し、「風景」という言葉が広く使われるようになりました。画家たちは、自然が見せる様々な表情に関心を持ち、絵に描いてきました。ここでは、冬の風景にテーマを絞って近代の風景画を特集します。今回は、明治から昭和にかけて風景画家の第一人者として活躍した吉田博（1876-1950）の作品もあわせて展示いたします。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
百武兼行	風車のある風景	1877（明治10）	油彩・紙
亀井竹二郎	〈石版『懐古東海道五十三驛眞景』油彩原画〉より 「神奈川驛」「品川驛 自濱川上流望海面」	1878（明治11）頃	油彩・キャンバス
河合新蔵	武州五日市の雪景		水彩・紙
中川八郎	早春		水彩・紙
彭城貞徳	雪景色		水彩・紙
大下藤次郎	春雪の茶店		水彩・紙
小寺健吉	飯坂温泉		水彩・紙
満谷国四郎	冬	1922（大正11）	油彩・キャンバス
山本森之助	冬の磐梯山	1918（大正7）	油彩・キャンバス
内田巖	佃風景	1928（昭和3）	油彩・キャンバス
南薫造	雪のニコライ堂		油彩・スケッチボード
南薫造	雪の日の東京	1933（昭和8）	油彩・スケッチボード
中川一政	冬の郊外（葱畑）	1918（大正7）頃	油彩・キャンバス
片多徳郎	残雪の庭	1925（大正14）	油彩・キャンバス
中西利雄	ヴァンスの雪	1929（昭和4）	水彩・紙
吉田博	積み藁のある風景		水彩・紙
吉田博	風景		水彩・紙
吉田博	村里の子供たち（岩戸）		水彩・紙
吉田博	神の島	1930（昭和5）	木版・紙

## 展示室3 日本の前衛美術



佐藤昭一《作品61》

昭和前期、シュルレアリスム（超現実主義）と抽象絵画という20世紀にヨーロッパで誕生した新しい芸術運動が日本に紹介されました。若い芸術家たちは、これらの芸術運動に敏感に反応して、次々に新しい実験と創造を繰り返しました。

戦後の日本美術は、戦前から活躍していた彼らを中心に再出発します。美術も本格的に国際化の時代になり、表現方法の上でもさまざまな試みが行われました。1950年代後半には日本においてアンフォルメル旋風が巻き起こり、その力強い特異な表現は注目を集めました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
鎌田正蔵	白日夢	1938（昭和13）	油彩・キャンバス
早瀬龍江	營	1940（昭和15）	油彩・キャンバス
白木正一	虫囊	1948（昭和23）	油彩・キャンバス
杉全直	ふたりの肖像	1949（昭和24）	油彩・キャンバス
尾藤豊	川口鋳物	1954（昭和29）	油彩・キャンバス
勝呂忠	渾沌	1954（昭和29）	油彩・キャンバス
中村宏	射殺 Aching	1957（昭和32）	油彩・キャンバス
山下菊二	顔の中の顔	1963（昭和38）	油彩、コラージュ・キャンバス
難波田龍起	建物の構成	1954（昭和29）	油彩・キャンバス
村井正誠	いそぐ人	1956（昭和31）	油彩・キャンバス

鎌田正蔵氏寄贈

作者名	作品名	制作年	技法・材質
今井俊満	コンポジション23	1959 (昭和 34)	油彩・キャンバス
堂本尚郎	1962-18 (二元的なアンサンブル)	1962 (昭和 37)	油彩・キャンバス
佐藤敬	石の対話	1958 (昭和 33)	油彩・キャンバス
菅井汲	黒	1959 (昭和 34)	油彩・キャンバス
佐藤昭一	作品61	1961 (昭和 36)	油彩、パテ・キャンバス 佐藤昭一氏寄贈
土橋醇	星雲	1963 (昭和 38)	油彩・キャンバス

## 展示室 4 明治の石版画



亀井至一  
《美人》

18世紀末にヨーロッパで発明された石版画技法が幕末に日本に伝わると、明治政府は石版画によって正倉院や伊勢神宮に伝わる御物などを記録しました。それに対して民間では、銅版画から出発した玄々堂などが西洋画家・亀井至一らとともに、記録はもちろん、書物の挿絵などで積極的に石版画を制作していきました。それまでの木版画や銅版画などよりも陰影をつけやすいことから、写真や西洋画家たちが描いた原画をもとにしたものも多く、たいへんな人気を誇りました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
	『聖教初学要理』（大日本司教プティジャン編）	1875 (明治 8) 頃刊	石版・紙／本
	『大日本貨幣精図』	1878 (明治 11) 刊	多色刷石版・紙／本
	『国華余芳 正倉院御物』	1880 (明治 13) 刊	多色刷石版・紙／本
	『国華余芳 伊勢内外神宝之部』	1880 (明治 13) 刊	多色刷石版・紙／本
	『朝陽閣鑑賞 錦織之部』	1883 (明治 16) 刊	多色刷石版・紙／本
	『波間の錦』	1883 (明治 16) 刊	多色刷石版・紙／本
亀井至一 (画作)	『観古図説 陶器之部四』（蜷川式胤発行)	1877 (明治 10) 刊	石版、手彩色・紙／本
下国巖之助 (画作)	『観古図説 陶器之部五』（蜷川式胤発行)	1877 (明治 10) 刊	石版、手彩色・紙／本
亀井至一	東京隅田堤之景	1882 (明治 15)	石版・紙
亀井至一	東京下谷芸妓小幾	1883 (明治 16)	石版、手彩色・紙
守住勇魚	住吉神社之真景	1879 (明治 12) 頃	石版・紙
疋田敬蔵	北海道小樽港有幌之景	1881 (明治 14)	石版・紙
	『佳人之奇遇』初編卷二 (東海散士著 博文館刊)	1885 (明治 18) 刊 (初版)、 1886 (明治 19) 刊 (再版)	石版・紙／本
生巧館	元旦譜 (『毎日新聞』明治 23 年 1 月 1 日号付録)	1890 (明治 23)	石版・紙
原田直次郎	恭賀新年 大江山鬼狩道行之図 (『国民新聞』明治 24 年 1 月 1 日号付録)	1891 (明治 24)	石版・紙
亀井至一	美人 (『時事新報』明治 27 年 9 月 5 日号付録)	1894 (明治 27)	石版・紙 松本倫子氏寄贈
岡村政子 (推定)	愛犬と少女 (『時事新報』明治 31 年 1 月 1 日号付録)	1898 (明治 31)	石版・紙
北澤楽天	やまとひめとブリタニヤ (『時事新報』明治 35 年 6 月 26 日号付録)	1902 (明治 35)	石版・紙
和田英作	こだま (『時事新報』明治 37 年 1 月 1 日号付録)	1904 (明治 37)	石版・紙
岡田三郎助	ゆびわ (『大阪時事新報』明治 41 年 1 月 1 日号付録)	1908 (明治 41)	石版・紙
和田英作	昭憲皇太后 (『大阪朝日新聞』明治 44 年 5 月 28 日号付録)	1911 (明治 44)	石版・紙
矢島智三郎	貴顯令嬢	1888 (明治 21)	石版、手彩色・紙
渡辺忠久	美人花見之図	1888 (明治 21)	石版、手彩色・紙
辻井弥三郎	校書髪ヲ洗図	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙
荒川藤兵衛	今小町	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙
藪崎芳次郎	愛犬之図	1888 (明治 21)	石版、手彩色・紙
杉山清三郎	柳橋名妓	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙
勝山繁太郎／矢島智三郎	都之花	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙
平澤源八	貴顯之令嬢	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙
浅間利恵子	新吉原名妓喜代	1882 (明治 15)	石版・紙
岡村政子	きよひめ	1888 (明治 21)	石版、手彩色・紙
岡村政子	牛若丸	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙
岡村政子	梅若丸	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙
岡村政子	親愛ノ姉稚児喜ビノ図	1888 (明治 21)	石版、手彩色・紙
岡村政子	仙女伏姫幽窟において読経の図	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙
岡村政子	みなつる姫	1889 (明治 22)	石版、手彩色・紙
岡村政子	忠臣義士	1891 (明治 24)	石版・紙
床次正精	西郷隆盛肖像	1887 (明治 20)	石版・紙

## 展示室4 用の美



浜田庄司《白釉鉄絵茶碗》

生活に深くかかわる器や道具類は、私たちの日々の暮らしを豊かに彩る役割も担っています。すぐれた工芸作品は、実用性だけでなく目をたのしませ、心に響くような色やかたちを備えています。こうした作品は、デザイン性と良質な素材、作り手のたしかな技や機能美が調和していると言えるでしょう。

今回は、郡山市出身のガラス工芸家、佐藤潤四郎の作品を中心に「用の美」をテーマに展示します。ガラスの花器や陶の茶碗など、透明感とあたたかみを生かした魅力ある作品をご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	スタンドグラス・窯		ガラス、鉄	小林東洋氏寄贈
佐藤潤四郎	鍛鉄吹込花器		ガラス、鉄/鍛鉄吹込・雲母封入	
佐藤潤四郎	鍛鉄吹込花器（顔）	1986（昭和61）	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	クリスタル花器		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	花器・何をしようか	1986（昭和61）	ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	皿（グリーン）		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯・大好きな形		ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯（グリーン）		ガラス/宙吹・プランツ	石川和子氏・長谷川貴子氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー		ガラス/型吹ほか	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎デザイン/カガミクリスタル制作	「スーパーニッカ」手吹きボトル	1962（昭和37）頃	ガラス/宙吹	川崎清氏寄贈
佐藤潤四郎デザイン/カガミクリスタル制作	ウィスキーボトル「インペリアル」	1962（昭和37）頃	ガラス/機械製産	サントリー（株）提供
佐藤潤四郎	灰皿		ガラス/型押し	
佐藤潤四郎	フンペングラス	1975（昭和50）頃	ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	花器（カットグラス）	1986（昭和61）	ガラス/宙吹・エッチング、カット	
佐藤潤四郎	水指（カットグラス）	1986（昭和61）	ガラス/型吹・カット	
佐藤潤四郎	花器・馬車に乗るガラスの神様	1973-76（昭和48-51）頃	ガラス/宙吹、サンドブラスト	（株）ノリタケクリスタル寄贈
佐藤潤四郎	花器・仏足跡ロータス		ガラス/宙吹、サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ペーパーウエイト・ペガサス		ガラス/サンドキャスト	木村四郎氏寄贈
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980-82（昭和55-57）頃	ガラス/宙吹・カット	
佐藤潤四郎	ブルー花器		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	1941（昭和16）頃	ガラス/宙吹	石井謙治氏寄贈
佐藤潤四郎	アイスクリーム皿		ガラス/宙吹	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	花器（雲母入り）		ガラス/型吹・雲母封入	
バーナード・リーチ	白磁魚絵皿	1961（昭和36）	磁器	
バーナード・リーチ	鉄絵碗		陶器	
浜田庄司	白釉鉄絵茶碗		ストーンウェア	
浜田庄司	鉛釉花打茶碗		陶器	
浜田庄司	黒釉錆流描角皿		陶器	
田村耕一	野草図楕円鉢	1963（昭和38）頃	陶器	麻山富義氏寄贈
三輪休雪（11代）	白萩茶碗	大正 - 昭和	陶器	渡辺宗侑氏寄贈

## ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階				
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963（昭和38）	セメント	細川明子氏寄贈
笠置季男	躍進	1958（昭和33）	セメント	
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
●2階展示ロビー				
高田博厚	アラン像	1932（昭和7）	ブロンズ	
舟越保武	少女	1956（昭和31）	砂岩	
堀内正和	顔	1955（昭和30）	鉄、セメント	
植木茂	体		木	
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡2		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	大方竜子氏寄贈
●前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	